

## 第1回地域医療構想調整会議（島しょ） 書面開催結果について

### 1 具体的対応方針に関する議論の進め方について

- コロナ禍を通じて、島しょ地域が医療福祉の面でいかに変容したかを振り返り、掘り下げた評価が重要。デメリットの側面のみならず、メリットも浮き彫りにされ则认为られる。各島しょ医療機関への確認・調査においても、5 疾病 5 事業から 5 疾病 6 事業への変更をふまえ、種々の報告事項にも上記要素を加味した分析調査が実態把握に有効ではないか。
- 機能別病床数に関して、コロナ陽性者用の病床を島しょ地域で確保した場合に、人的資源の不足が発生するため、各島しょ地域の新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、病床数も流動的になりうることを認識する必要がある。

### 2 資料 1 – 3 の地域連携に関する調査票に追加・修正すべき設問

- 地域医療構想の取組開始以降の変化については、H29 からの変化と昨年一昨年の変化を分けた記載を求めてはどうか。
- 地域医療構想に関する取組開始以降の変化は、医療者の臨床的な実感を記載するのか、何か参考になる指標をもとに市町村医療課と確認しつつ記載するのか。後者の場合は参考となる指標を示してほしい。

#### 東京都回答

資料 1 – 3 中の地域医療構想に関する取組開始以降の変化に関する設問は、前者を回答いただく想定で作成しました。調査票の設問項目については、今回いただいた御意見を踏まえ、今後地域医療構想アドバイザー等と相談の上決定していきます。

御意見ありがとうございました。

- 今年度末までに 5G を使用してリアルタイムでアドバイスや画像判断などが試験段階で出来るようになる予定。内視鏡や超音波、放射線画像診断を利用することで緊急ヘリ搬送の時間短縮や当院で治療が完結できるケースも増えるのではないかと考えられる。ただし広尾病院のみとなるので他の病院ともやり取りが可能になるとさらに幅が広がるのではと考える。

○当院ケアマネジャーで地域包括ケア病床をスタートし、MSW も常駐するようになり地域のケアマネジャーや老人介護施設などと積極的に話し合いが持てるようになった。また退院前カンファなどを行うことにより連携も以前よりとりやすくなった。

ただ、病棟看護師がもう少し地域にむけて働きができれば、もっと連携がスムーズに機能すると考えられ、今後の課題である。特に八丈町は特養老人ホーム 1 軒、病院 1 軒、クリニック 1 軒、サポート付き高齢者住宅 1 軒、デイサービス数件しかないため、病院の果たす役割は大きいと考える。

### 3 その他

○東京都立広尾病院が昨年一昨年に展開した島しょ医療の受け入れ体制について、振り返りの感想を忌憚なくうかがいたい。その所感をふまえて、これからの広尾病院がいかにあるべきかのご提案を頂戴したい。